



(近江八幡)

観音寺城下町遺跡は近江国守護であった六角氏の居城として知られる観音寺城の存在する観音寺山（織山）南麓に位置する遺跡である。これまでに当協会及び安土町教育委員会によって数回調査が行なわれており、古墳時代から戦国時代の複合遺跡として知られているが、特に戦国時代の遺構及び遺物は観音寺城の城下町に関連するものとして注目される。今回の調査は県営

滋賀・観音寺城下町遺跡

1 所在地 滋賀県蒲生郡安土町石寺地先

2 調査期間 一九九六年（平8）五月～六月、一〇月～十二月

3 発掘機関 滋賀県教育委員会・（財）滋賀県文化財保護協会

4 調査担当者 岩橋隆浩

5 遺跡の種類 城下町跡

6 遺跡の年代 室町時代（戦国時代）

7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

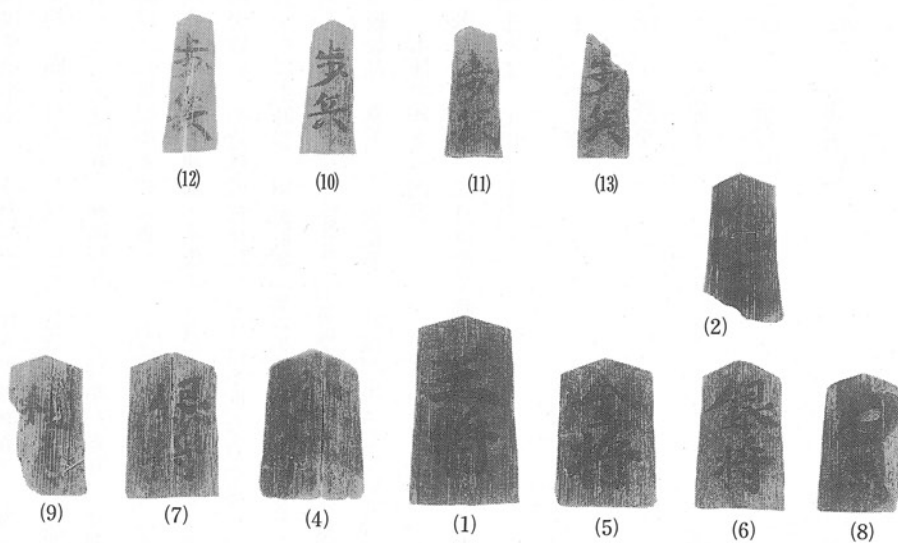
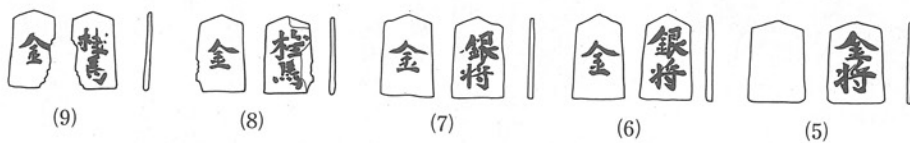
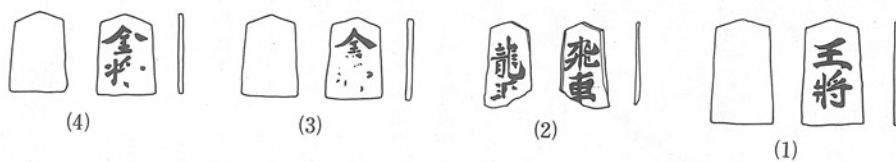
観音寺城下町遺跡は近江国守護であった六角氏の居城として知られる観音寺城の存在する観音寺山（織山）南麓に位置する遺跡である。これまでに当協会及び安土町教育委員会によって数回調査が行なわれており、古墳時代から戦国時代の複合遺跡として知られているが、特に戦国時代の遺構及び遺物は観音寺城の城下町に関連するものとして注目される。今回の調査は県営

圃場整備事業（送水管埋設）に伴う発掘調査で、幅1mのトレンチを約2kmにわたって設定した。確認された遺構は七世紀・一四世紀頃・一六世紀中葉（戦国時代）の三時期があり、今回報告する将棋駒は一六世紀中葉に位置づけられる遺構から出土した。他の戦国時代の遺構には石組溝・素掘溝・井戸・土坑（？）があるが、トレンチ幅が狭いため遺構の性格については不明な点が多い。当該期の各遺構からは土師器・陶磁器類（瀬戸美濃・信楽・染付など）・瓦・木製品（下駄・盤・漆器碗・漆器皿・木製碗未製品・鋤・杵・編籠・ザルなど）・金属製品（鉄製刀子・銅製鞍）・鉄滓が出土している。

8 木簡の积文・内容

出土した木簡一三点は全て将棋の駒で、土坑と推測される遺構からまとまって出土した。

- | | | | |
|-----|-------|---------------|-----|
| (1) | 「王将」 | 47×28×2 | 061 |
| (2) | ・「飛車」 | | |
| | ・「龍王」 | (38)×(23)×2.5 | 061 |
| (3) | 「金将」 | 37×27×3 | 061 |
| (4) | 「金将」 | 36.5×26.5×2 | 061 |



(5)	「金将」	37×26×2 061
(6)	・「銀将」	
	・「金」	38.5×24×3 061
(7)	・「銀将」	
	・「金」	37×24×2 061
(8)	・「桂馬」	
	・「金」	34.5×(23)×2 061
(9)	・「桂馬」	
	・「金」	35×(22)×2 061
(10)	・「歩兵」	
	・「金」	33.5×15×2 061
(11)	・「歩兵」	
	・「金」	33.5×16×2 061
(12)	・「歩兵」	
	・「金」	34.5×15×2.5 061

(13) ・歩兵」
・金」 (35)×13×1.5 061

字はすべて墨書で、彫駒や漆書のもは一点もない。また裏面の「金」は「銀将」と「桂馬」では楷書でしっかりした印象を受けるが、「歩兵」のものは崩した字体である。

平面形態は現在のものとほとんど変わらないが、「歩兵」のみ縦横の比率が他の駒と違い細長い。また厚さは二―三mmと薄く、駒頭から駒尻まで均一な点が特徴である。これらの形態的特徴はほぼ同時期の福井県一乗谷朝倉氏遺跡出土のいわゆる朝倉駒に酷似している。

(岩橋隆浩)